

2026 年度湘南医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(博士後期課程)

入学者選抜Ⅱ期

小論文 出題の意図

設問 1

動物の手と形態的にも、解剖学的にも異なる人間独自の手は、いかなる動物も機能的に比較にならない分化と発達を遂げている。一方で、過ち多き人生も手によって作られる。このような手の機能を改めて振り返ることにより、人の手の使い方から人間の人生の生き方も考えた真の手の使い方とは何かを問う。

設問 2

人間の手の機能は知であり、事実の認知も可能である。触覚や知覚や聴覚よりも、ものをしっかりととらえる確実な認知が手にあるが、その手の効果的な意味は何かまたその活用方法を考える力を問う。